

オホーツク海貝毒プランクトン速報

(H25(2013)年7月下旬)

H25(2013)年7月26日
中央水産試験場資源管理部

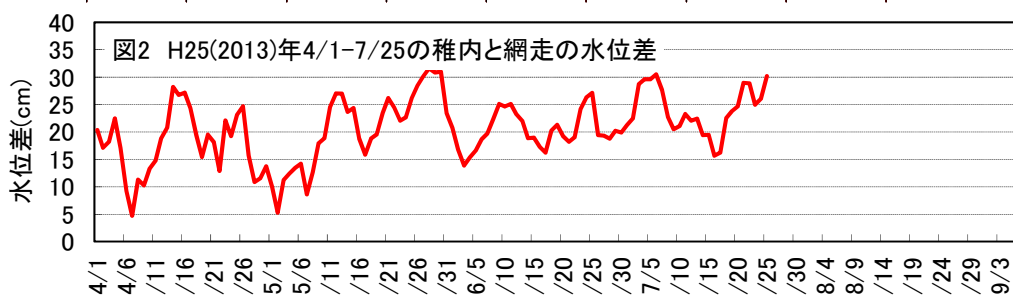
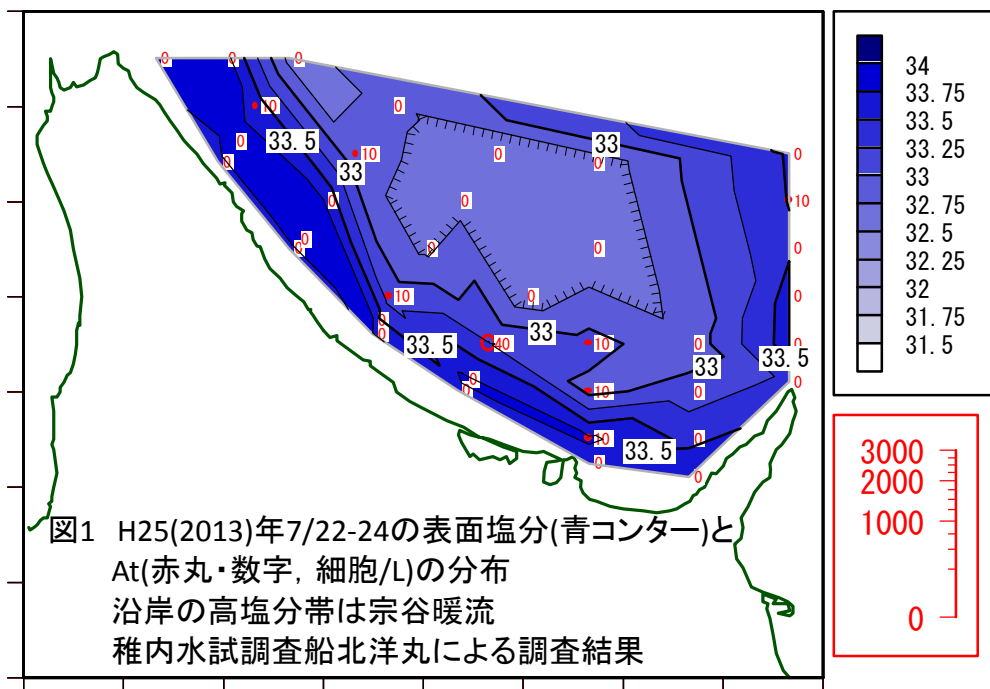
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, 以下At)は, 宗谷暖流外側の低塩分水にわずかに出現しています(図1)。Atは全37調査点のうち8点で出現しましたが、最高出現数は湧別沖の40細胞/Lにとどまり、毒化の目安となる100細胞/Lを超えて出現した点はありませんでした。表面水温は多くの調査点で15°Cを超えているため、5-15°Cの水温を好むAtが今後増殖する可能性は低いと考えられます。宗谷暖流が今後弱勢となっても、大量のAtが地まきホタテ漁場に流入する可能性は低いと考えられます。

●沖のAtが少ないことから、本年の本海域における麻痺性貝毒発生の可能性は低いと考えられます。

●7月下旬現在の宗谷暖流の勢力は強めです(図2)。

●本年度のオホーツク海貝毒プランクトン調査は今回で終了します。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れます。この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク沿岸 宗谷暖流情報

(H25(2013)年7月中旬)

H25(2013)年7月19日

中央水産試験場資源管理部

(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

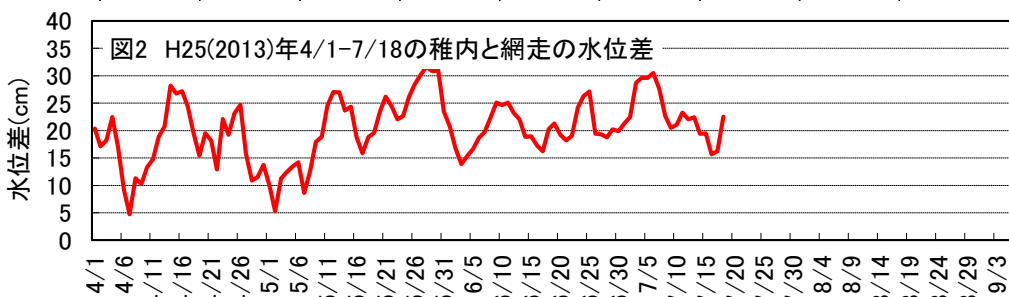
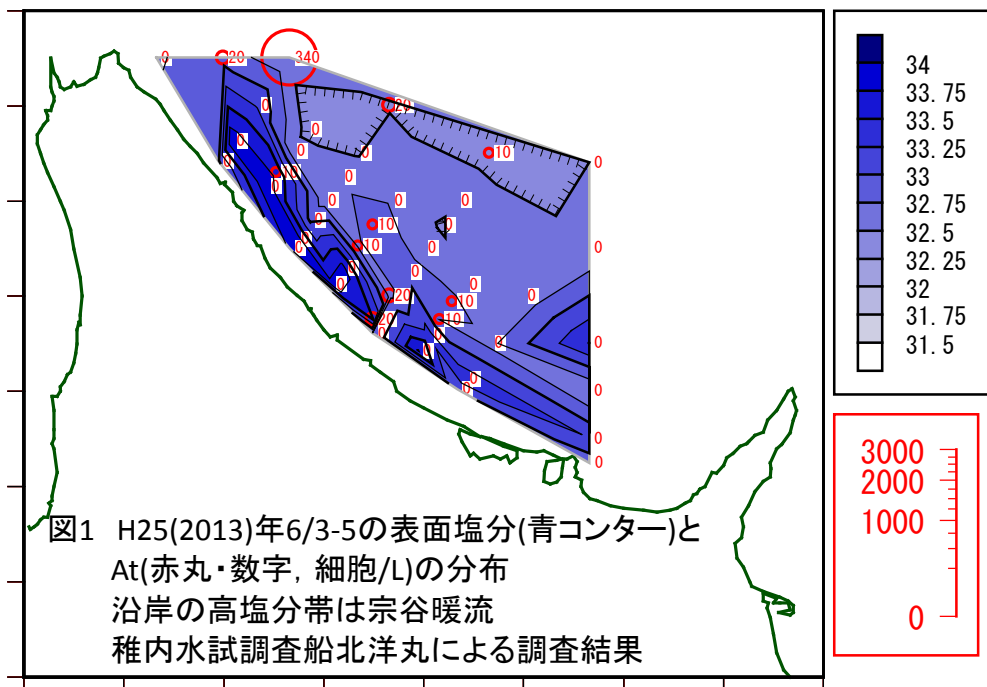
●6/3-5の沖合調査の結果、麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、主に宗谷暖流外側の低塩分水に分布していることが分かっています(図1)。本海域では6月上～中旬、6月下旬～7月上旬および7月中旬の3度にわたって比較的長く好天が続いたことから、沖合のAtは増殖している可能性があります。

●稚内と網走の水位差で指標される宗谷暖流の勢力*が弱まれば、Atを含んだ水塊が沿岸のホタテ漁場に流入して、麻痺性毒性値が上昇する可能性があります。7月中旬現在の宗谷暖流の勢力は例年並みですが(図2)、北寄りの風が数日にわたって強く吹くなどの気象条件によって、勢力が弱まる恐れがあります。今後の麻痺性毒性値の推移に注意してください。

●宗谷暖流の勢力については今後、適宜情報を発信します。

●次回のオホーツク海貝毒プランクトン調査は7月下旬を予定しています。

下船後、結果を順次速報する予定です。



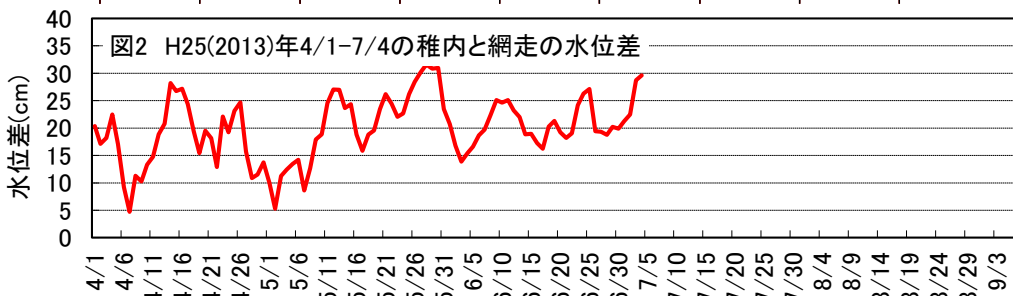
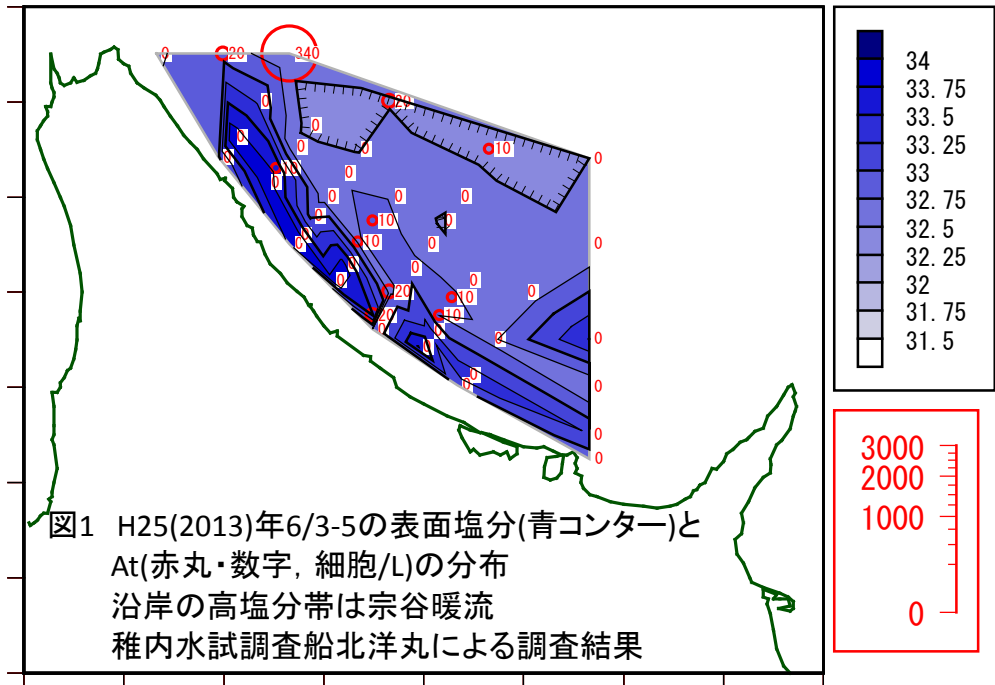
*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており、この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク沿岸 宗谷暖流情報

(H25(2013)年7月上旬)

H25(2013)年7月5日
中央水産試験場資源管理部
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

- 6/3-5の沖合調査の結果、麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、主に宗谷暖流外側の低塩分水に分布していることが分かっています(図1)。本海域では6月上～中旬および6月下旬～7月上旬の2度にわたって比較的長く好天が続いたことから、沖合のAtは増殖している可能性があります。
- 稚内と網走の水位差で指標される宗谷暖流の勢力*が弱まれば、Atを含んだ水塊が沿岸のホタテ漁場に流入して、麻痺性毒性値が上昇する可能性があります。7月上旬現在の宗谷暖流の勢力は例年並み～強めですが(図2), 北寄りの風が数日にわたって強く吹くなどの気象条件によって、勢力が弱まる恐れがあります。今後の麻痺性毒性値の推移に注意してください。
- 宗谷暖流の勢力については今後、適宜情報を発信します。
- 次回のオホーツク海貝毒プランクトン調査は7月下旬を予定しています。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており、この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク沿岸 宗谷暖流情報

(H25(2013)年6月中旬②)

H25(2013)年6月21日

中央水産試験場資源管理部

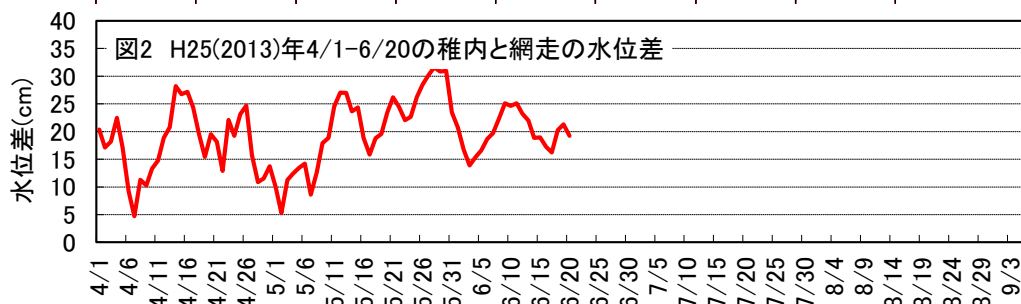
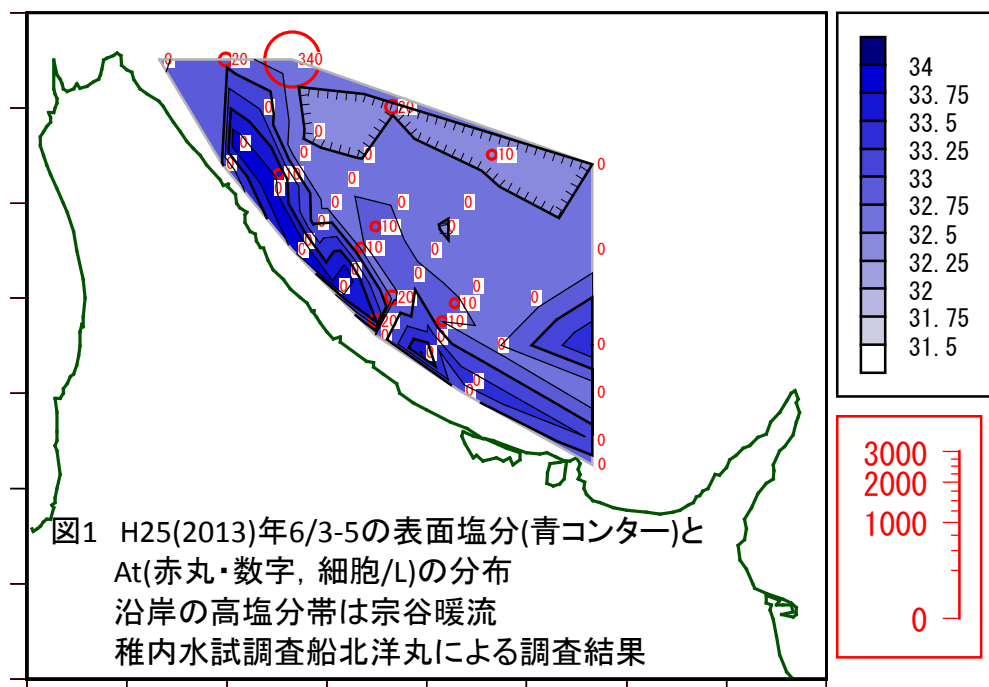
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●6/3-5の沖合調査の結果、麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、主に宗谷暖流外側の低塩分水に分布していることが分かっています(図1)。本海域では6/6-12にかけて比較的穏やかな晴天が続いたことから、沖合のAtは増殖している可能性があります。

●6月上旬のAtは昨年よりも少なめですが、稚内と網走の水位差で指標される宗谷暖流の勢力*が弱まれば、Atを含んだ水塊が沿岸のホタテ漁場に流入して、麻痺性毒性値が上昇する可能性があります。6月中旬現在の宗谷暖流の勢力は例年並みですが(図2), 北寄りの風が数日にわたって強く吹くなどの気象条件によって、勢力が弱まる恐れがあります。今後の麻痺性毒性値の推移に注意してください。

●宗谷暖流の勢力については今後、適宜情報を発信します。

●次回のオホーツク海貝毒プランクトン調査は7月下旬を予定しています。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており、この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク沿岸 宗谷暖流情報

(H25(2013)年6月中旬)

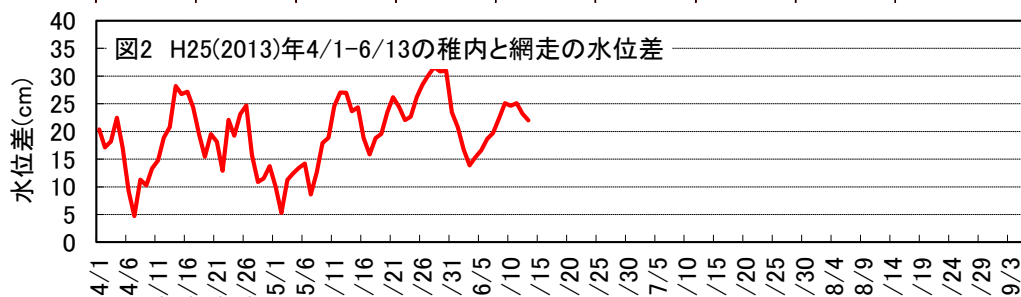
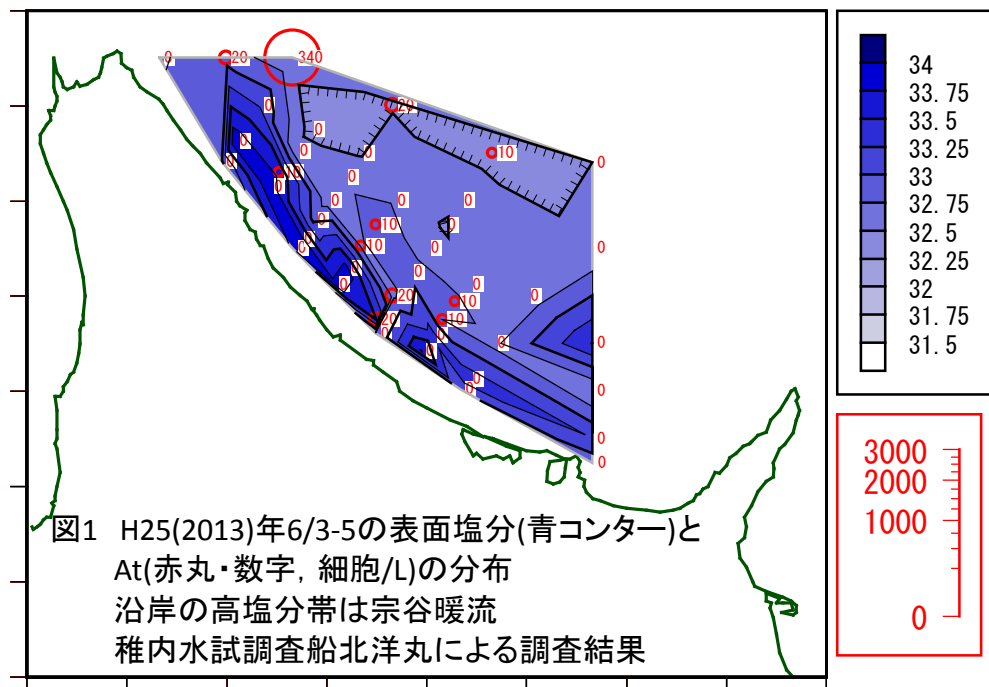
H25(2013)年6月14日
中央水産試験場資源管理部
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●6/3-5の沖合調査の結果、麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、主に宗谷暖流外側の低塩分水に分布していることが分かっています(図1)。先週末から今週にかけて比較的穏やかな晴天が続いたことから、沖合のAtは増殖している可能性があります。

●6月上旬のAtは昨年よりも少なめですが、稚内と網走の水位差で指標される宗谷暖流の勢力*が弱まれば、Atを含んだ水塊が沿岸のホタテ漁場に流入して、麻痺性毒性値が上昇する可能性があります。6月中旬現在の宗谷暖流の勢力は例年並みですが(図2), 北寄りの風が数日にわたって強く吹くなどの気象条件によって、勢力が弱まる恐れがあります。今後の麻痺性毒性値の推移に注意してください。

●宗谷暖流の勢力については今後、適宜情報を発信します。

●次回のオホーツク海貝毒プランクトン調査は7月下旬を予定しています。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており、この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

オホーツク海貝毒プランクトン速報

(H25(2013)年6月上旬)

H25(2013)年6月7日
中央水産試験場資源管理部

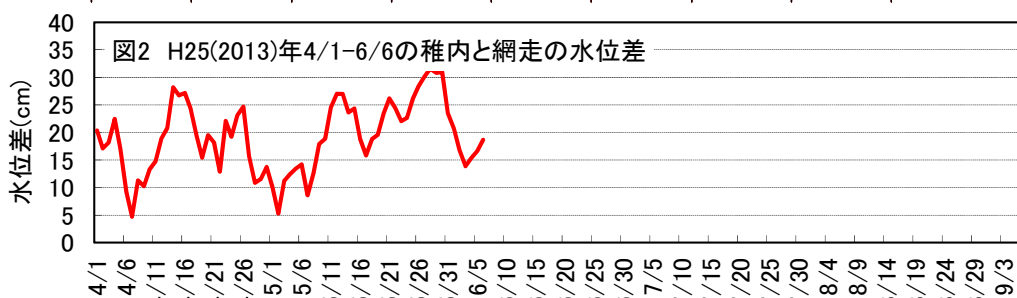
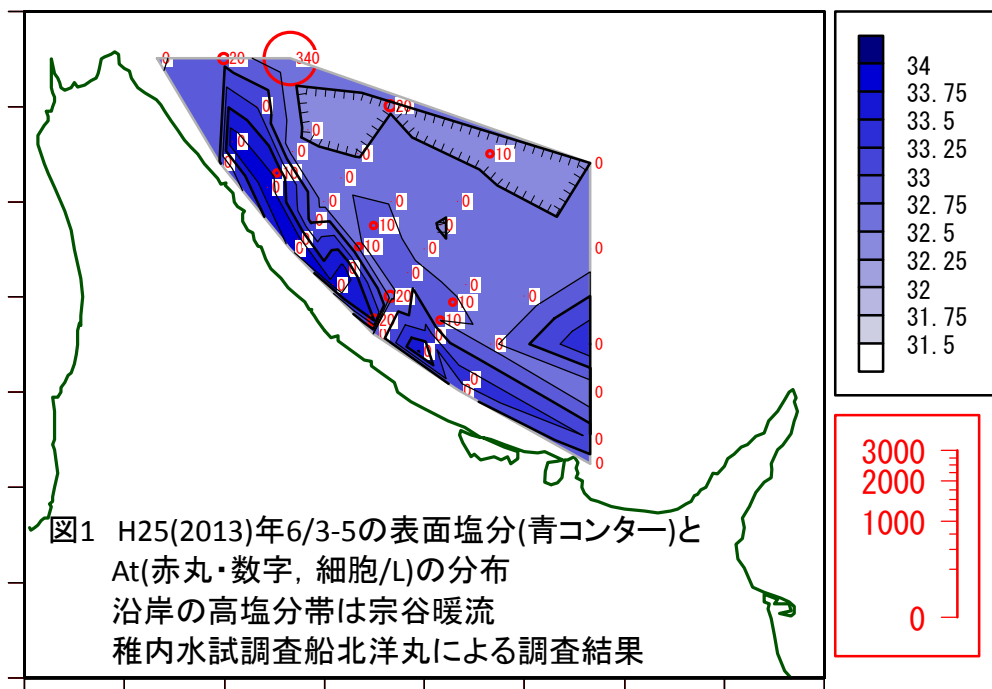
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田)

●麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ, At)は、主に宗谷暖流外側の低塩分水に出現しています(図1)。Atは全45調査点のうち11点で出現し、毒化の目安となる100細胞/Lを超えて多く出現した点は浜頓別沖合32マイルの1点(340細胞/L)のみでした。

●宗谷暖流すぐ外側のAtは昨年よりも少なめですが、稚内と網走の水位差で指標される宗谷暖流の勢力*が弱まれば、Atを含んだ水塊が沿岸のホタテ漁場に流入して、麻痺性毒性値が上昇する可能性があります。6月上旬現在の宗谷暖流の勢力は例年並みですが(図2)、北寄りの風が数日にわたって強く吹くなどの気象条件によって、勢力が弱まる恐れがあります。今後の麻痺性毒性値の推移に注意してください。

●宗谷暖流の勢力については今後、適宜情報を発信します。

●次回のオホーツク海貝毒プランクトン調査は7月下旬を予定しています。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており、この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。